

日本書紀傳 三十卷_{十六}

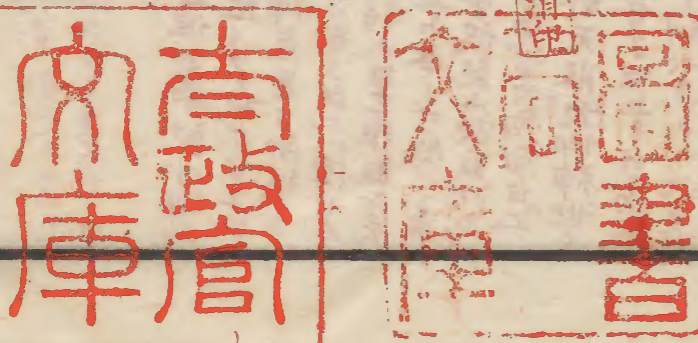
百十六

初
一〇五三
號

内閣文庫			
番號	和	10522	
冊數		156 (127)	
函號	特	85	1

内閣文庫





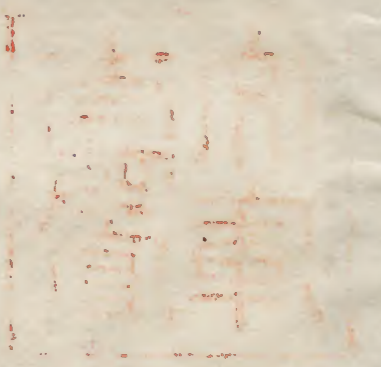
御有状を見奉り知べく又其多迄具久神久延毘古神
共小其事の次第因て祭祀可き神等あて渡せ

給へる程を明く曉る可き者あるうり
神を盡知天下之事神也之文小依て且人祭る
事あれとも其正身を見例の案山子の事と心得祭る
也其黨の神拜詞を見居鈴屋二翁の下の列ぬたる
ハ聞えたり然れども縣居山子の神靈あむる
ハ何たる僻事や縦や案山子の神坐すを甚く無礼
己み大國主神に仕奉る其天勝國勝奇魂千依彦命
可畏き事あらずやハ又其天勝國勝奇魂千依彦命
私名を稱へて世人を欺く如き甚く大ある福
事ある申右七百九十人下延古神も共小二柱共
ハ相並べ奉りて其行て天下の事を各其特別して
了小天下の御恩頼を幸ハ御在り遣使ハ使袁麻
坐す御事を仰尊と奉る可き者あり

日本書紀傳三十

〇八百三

内一六八三號



△但古事記の趣、然らず故尔白上於神産巢日御祖命と有る白上、傳廿三、五、六、草薙敷を天、上奉りて給へる事、を彼記に故取此大、刀思異物而白上、於天照大神御神也、有る白上も白而奉、訓へまかて此其、小同トく其御使、共其其事由を申、して此産名神と、奉りて給へる事、り正此北方然可

陀志代と訓り即其依御在坐ける神の狀の甚怪し
きや就て御名を問聞えさせ御在坐ける其神を
始奉りて所從の諸神さへみ答申されざりけるを久
延毘古神の此者神産巢日神之子女 名毘古那神と
御名を顯ハし申せりし由古事記に見たるが如く
ふれは其大己貴神の御方の神を以て御使と爲て天
上奉出給へる是あり遺字之麻陀須と訓由已
の傳廿二六十九下注ゆき○白於天神ハ古事記ハ故
尔白上於神産巢日御祖命と有て一神の御上を指奉
れるを此ハ汎く諸の皇祖天神ハ係て書されたる者

△故有る事あり右の遣使の下あり

わいて此方宜しきハ似たり下文ハ見えたる天神の
御言ハ愛而養之と有を以見ると此ハ天神ハ白上
させ給へるハ已ハ久延毘古の申す所ハ依て天神の
御子ハ御在坐御事ハ本より所知食けるを然れ
ども古事記の如く此此産名神をも共奉りて給へるが如く斯く幼稚き神の
廢れ落給へれば奉りて上させ給ふ由を聞えさせて
此ハて養い奉る可きや天上留させ奉給ふ可
きやと天神の御所置ハ從ハ物為させ給はむとの御
心向あり御在坐たりけり此ハ白於天神と有るを
地本紀ハハ故尔白
上於天神之時と有と白をハ古事記ありと ○于時高
同ト狀ハ白上と書ハハハ
皇産靈尊聞之而曰と有ハ其奉出せる御使より奏さ

する大己貴神の御言を傳聞食させ御在り坐て御言
詔為給へるあり備此高皇產靈尊を上田百樹説の一
本神皇產靈尊と有と云る、古事記小白上於神產巢
日御祖命者答告此者實我子也と有り依て後人の俛
せり本あるの存を也見たりけむ地神本紀にも此を
神皇產靈尊聞之曰と有、古事記小取れる者ありて
論無一抑此高皇產靈尊神皇產靈尊二柱神ハ一と其
始謂ゆる隱身ハ御在り坐ける御時より夫婦の御中
間めて渡りせ給へるが事と有る時、ハ其顯身を現
ハ一御在り坐て彼天上の二上ハ御在り坐りも本よ

り男女の御形ありて御在り坐も著く其神皇產靈尊の
御事を一も右の如く神御產巢日御祖命と申奉る御
祖命ハ女祖命の謂あるハ更にも云ず神名式ハ出雲
国出雲郡神魂意 保力自神社と有るハ允恭天
皇二年御紀ハ戸母此云觀自て有て婦人を云稱あり
然して古語拾遺ハ高皇產靈神を是皇親神留伎命と
神皇產靈神を是皇親神留弥命と註され出雲神賀詞
ハ先ハ高天能神王高御魂神魂命と有て後ハ於是親
神魯伎神魯美乃命と有る即男女の皇祖神ハて渡り
せ給ふ謂ありけれハ此二大神の御夫婦ハて渡りせ

給へる事著ければ神皇產靈尊の御腹より出させ給ふとも其種子を云時ハ高皇產靈尊より渡らせ給へれば何方も就ても御子と申して事の違へるもの非るあり其上天孫降臨章あど各其二柱神の係列いせ給へる御事あり高皇產靈尊一種の御名を奉りて神皇產靈尊の御名を略し又古事記の唯神産巢日神の御名を略し高皇產靈尊の御名を並載し給ふ可き事申も更あり儲前年其上田百樹の著し奇異大本圖考を見たる事有り其説小く高皇產靈神より伊弉諾尊を受け天照太神に続きて皇御孫尊の傳ハリ神皇產靈神より伊弉冉尊を受け素戔嗚尊に続きて大國主神の傳ハリ可き事ある旨

ころハ有けり其ハ此宝鏡開始章第三一書小玉作遠祖伊弉諾尊兒天明玉と有を姓氏録石京神別小玉上天神作連高魂命孫天明玉命之後也と有る是高皇產靈神と伊弉冉尊とハ決めて近き所以の御在り坐す為か可く又四神出生章ハ於是共生口神号大日靈貴此子光華明彩照徹於六合之内故二神喜曰吾息虽多未_下有若此靈異之兒不宜久留此国自當早送于天而授_以天上之事と有て瑞珠盟約章ハ伊弉諾尊功既至矣徳亦大矣於是登天報命仍留宅於日之少宮矣と見えたり是天照太神の伊弉諾尊に属奉らせ給へる正しき

徴ある者あり又顯宗天皇三年御紀小日神著人謂
阿閉臣事代曰以磐余田獻我祖高皇產靈尊云々有
了是天照太神の高皇產靈神を以て我祖と崇奉せ
給へるあり此れ合せて天孫降臨章の皇孫天津彦
火瓊杵尊と對へ奉りて皇祖高皇產靈尊と書され
神武天皇御紀の我天神高皇產靈尊大日靈尊と有る
天神は我皇祖天神の義あり其四年御紀の詔曰我皇
祖之靈也自天降鑒光助朕躬今諸虜已平海内無事可
以郊祀天神用申大孝者也乃立靈時於鳥見山中其地
号曰上小野榛原小野榛原用祭皇祖天神焉と有る相

照し見るとき其皇祖と申し天神と申し又皇祖天神
と指すも其二大神の御上を申す御事あり所以古
語拾遺の此を皇天二祖と申されたり是即其高皇
產靈神を顯露事所知着させ給ふも天津日嗣の御上より皇祖天神と崇め
聞えさせ御在し坐す證あり但其奇異大本圖考ハ予
弘化四年六月ハ有
け玉京の物為し時々泉康敬が見せたるハ甚片成
る物ありしとも其趣意ハ右の趣ありし事を且
記憶え居て今思出る任ハ書せるあり然る言ハ本
書の文ハ其違へる事多かりぬ可き然る言ハ本
見えたるを此人ハ然る説の有る人皆知す止る
可憐たるを此今ハ親神漏岐神漏美乃命以て皇
允ての御計はひハ皇親神漏岐神漏美乃命以て皇
祝詞も多し書して二柱共ハ預る心得むハ穂ある
の如く高皇產靈尊一柱ハの係りて心得むハ穂ある

ありき事あり物に主客の別有て某事ハ高皇產靈
尊主として計り給ひ此事ハ神皇產靈尊が主と成
て物為させ給ふと云ふ意味大ハ又神皇產靈神を大
在る事あるを以て今如此云あり
国主神の祖として給ふ所以ハ先其 伊弉冉尊の已く
根国ハ御在し坐けるを素戔嗚尊の甚く慕聞えさせ
給ひて四神出生章第六一書ハ吾欲從母於根国只為
泣耳伊弉諾尊恵之曰可以任情行矣乃遂之と有ハ此
宝劍出現章ハ已而素戔嗚尊遂就於根国矣と所見ハ
是其御祖伊弉冉尊ハ屬奉らせ給へる證あり若こ
古事記ハ素戔嗚尊の大宜津比賣神を殺させ給ひけ
るハ其神の御身より種々の穀物の成出たるを故是

神產巢日御祖命令 取茲成種々有ハ御祖神皇產靈
神ハ別の親しく御在し坐す所以あり可きハ其大國
主神の御事ハ至りてハ彼八十神ハ殺され給ひし所
ハ其御祖命冥恵而參上干天請神產巢日之命時乃
遣靈貝此賣與給 貝此賣令作活と見え又此ハ少彦
名神の依御在し坐けるハ故尔白止於神產巢日御祖
命者此者實我子也於子之中自我手保久岐斯子也故
與汝葦原色許男命為兄弟而作堅其國と見え又天御
饗長段ハ是我所燧火者於高天原者神產巢日御祖命之
登陀流天之新巢之凝烟之八拳垂摩立燒琴云と有

ハ更あり天孫降臨章第二ノ書ハ謂ハル高皇產靈尊
乃還遣ニ神勅大己貴神日汝應住天日隅宮者今當供
造云々ノ事ヲ出雲風土記楯縫郡條ハ神魂命詔五十
足天日栖宮之縱橫御量十尋拵繩持而百結ニ八十結
ニ下而此天御量持而所造天下大神之宮造奉詔而御
子天御鳥命楯部爲而天降下給之々所見たるハ上ハ
凡シ其國ハ在ルル故事ハ神魂命ハ傳ハル神名式
ハハ出雲郡杵築大社大社名神同社神魂御子神社同社神
魂伊能知奴志神社又阿須伎神社同社神魂意保乃自
神社又伊努神社同社神魂伊豆乃賣神社同社神魂神

社又神門郡比布智神社同社坐神魂子角魂神社也
所見タル共ハ其幽事所知者ハ大國主神ノ御方ハ
神皇產靈神也御祖神也爲サセ御在リ坐ベキ
所以有リ御事著明キ者あり斯レハ顯宗天皇三年御
紀ハ月神著人謂之曰我祖高皇產靈尊有預鑄造天地
之功宜以民地奉ト有リ日神ノ御託言ハ我祖高皇產
靈尊ト月神ノ御方ハ我祖神皇產靈尊ト有ツル也
誤レるある可ク素戔鳴尊即月神ハ御在リ坐す由ハ
師ノ記傳ハ且ク云レたるガ如ク云々ト云々ハ凡シ
宜ク但右ノ顯宗天皇御紀アル月神ノ御託言アルハ

右の例共の如く神皇產靈尊と有る將欲事あり
有れども本より此二神共の日神あり月神あり御祖
神ありて渡りせ給へれば高皇產靈尊一神を攀て例の
二神あり且る御事と見奉るむ何てふ事あり有べき
右の如く日神の御末の方あり高皇產靈尊より月神
の御末の方あり神皇產靈尊より係りて萬の事共の
御在り坐を以見れば此ある少名神の御事と古事
記の神產巢日御祖命の御上ありて傳へたるあり甚と
正しく所思えける但右あり注るが如く此の高皇產
靈尊の御事を同ト人の説の一本
神皇產靈尊と有り云事ハ古史徵あり引たれども
疑わしき心ちす此宜然るに撰を云人あり非れども

然る一本も必在りある可けれども御紀の趣ハ古事
記のハ抱つたりずして高皇產靈尊と傳りたり事決
まき者あり○吾所産兒ハ吾宇米流美古と訓り儲此
二柱神の御兒を産成し給へる狀ハ一と諸神とい甚
く異なる御事とあり御在り坐へるる一然るハ傳
四七十一ハ注し奉るが如く神世七代章第四一書ハ皇
產靈此云美武須昆之所見えたる美ハ精ありて宇宙ハ
在りて精氣を云ひ武須昆ハ大同類聚方ハ係精液豆祢宇
牟須昆阿都无と有る此語ハ同ト其精氣を結ひ聚
めて天地と成し萬物と成して謂ゆる產靈の御徳を
しも相成し坐る由あり其武ハ宇牟の切事あるハ

かし仁徳天皇五十年御紀大御歌の鷹の卵生む事を
箇利古武等と詠せ給へる是箇利古宇武等と云事な
り又新撰字鏡に祀以帆祀司命也宇年須比万豆利と
有る宇年須比、此武須昆の本語ありければ武須昆
ハ生^ム統^ビの義ありて右の大同類聚方小年須比阿都
无と有る語ハ甚能合べ者あり記傳三ハ世中
ハ在と有る事ハ此天地を始て萬の物も事業も悉ハ
皆此二柱の産巢日大御神の産靈ハ資て成出る者な
り之云れむハ實ハ見徹されたる説あり此世中
ハ坐り坐す神等ハ更あり在と有る人種の皆ハ

も男女相嫁きて自相成す所ありと雖も其結成一給
ふハ全く其産靈ハ依れる御事ある故ハ拾遺集ハ
君見れば結の神が恨めし難面き人を何造りけむ
と詠るが如く今日我^ハ何某の子ありと雖も其作
成す者ハ皇産靈神ハ御在し坐ハ故ハ神代の神等を
伊弉諾尊伊弉冉尊二柱神の御子神あるをハ
姓氏録の例多くハ二柱の皇産靈神ハ係たるハ其成
す神と合成る神との御上みて混ハハ一きハ如く二
方ハ傳ハれるハ誰神の御子ありとも^皇産靈神の御子
と申して事の違ハざるを以あり然るハ此ハ吾所産

見九有一千五百座之有ハ天上ハ在ゆる神の限を吾
所産児と詔給へるゆて必しも二柱神講合して生給
ふと云ハ有べくす其産靈成し給ふ諸神の大数
を大九ハ詔出させ給へる可し然して其少彦名
神も其神の一神ゆて御在し坐あが有べし其
中ハ二柱神共ハ係れるも有べく又率の状ハ依て或
ハ高皇産靈尊ハ又ハ神皇産靈尊ハ係りて其所属の
各別あるも將多在りぬ可き○有一千五百座ハ舊事
事右ハ注せるを以曉る可し○有一千五百座ハ舊事
ハ依て千柱餘五百柱麻世理と訓べし然れども此ハ
必しも限れる数名ハ非ずして其大数を云ふあり
四神出生章第六一書ハ伊弉冉尊の^{吾當益叔}汝所治国民日將

千頭と申給へるハ對へて伊弉諾尊の愛也吾妹言如
此者吾則産日將千五百頭と詔給へる此事古事記ハ
も伊邪那美命言愛我那勢命為如此者汝国之人草一
日絞殺千頭尔伊邪那岐命詔愛我那迹妹命汝為然者
吾一日立千五百産屋是以一日必千入死一日必千五
百人生也と有る千頭千人五百頭千五百人あど共ハ
唯若干の数を云ふゆて此と同トキあり然るを口誤
ハ高皇産靈尊明化生萬物之神吾所産児ハ有一千五
百座者千五百大陽数當天之五行地之五行人之五行
化生之天神惣高皇産靈尊之兒也と云て大陽数ハ當

たる事更由無き事あり若然る時古事記黃泉段
 於其八雷神副千五百之黃泉軍令進進と有るも大陽
 教の當れりと為む其若當らざれば此の當
 可くさざるを如何のや為む通證のも千五百共諾
 尊日將産之數同良有以也と云れたるも其由無
 一猶千五百の事ハ傳卅二百 葦原千五百秋之瑞
 總國の所成就て注す可き者あり日吉神道秘容記ハ
 千五百座と云事有る國御子と云事心得ず此女彦名
 神の國土の天降給へるを以て此座を此座字を柱と
 坐し物と思ひて設たる俵ある可くや此座字を柱と
 訓む古神ハ更ハ云す貴人の御上を此座字を柱と
 奉るを以て神名式ハも幾座と云て神の御座の事
 として是あり通證ハ神曰幾座出干此玉篇座位也

△然るを神名秘抄引
 神祇譜由作大之書
 神共高皇產靈神之
 長子女名神共經言
 天下之有子依て長子思
 此此文合テ一ハ
 有る非あり此時未甚知
 柱一ハ天降給へる座
 事記の文共著る
 べき者ありをや
 △古千五百座と有
 る座字の訓ハ從
 じて

○其中ハ古事記ハ於子之中と有て數多御在し坐
 す御子等の中あり△一兒ハ一柱之御子と訓へ
 一四神出生章第六一書ハ一兒を古事記ハ依て子之
 一木と訓たれども其ハ別あり故有て其所限て
 然訓へし習有る事已ハ傳十六ハ注せる如くあれ
 此の例ハ非ず其一書及第十一書ハ勅任三子ミナミナミ
 日と有ハ更あり天孫降臨章ハ三子其第三一書
 小允此三子と有るや三柱之御子と訓て第五一書ハ
 遂生四子を四柱之御子と訓て神皇義運章ハ生四
 男と有るを四柱之此古御子と訓て安寧天皇三年御紀

小后生二皇子と有を二柱之御子と訓之孝元天皇七年御
紀小生二男一女垂仁天皇十五年御紀小生三男二女
と有る如きハ何れも幾柱之比古御子幾柱之比賣御
子と訓之又第一子第二子あど書れたるハ幾柱亦當
理給布御子と訓奉る可き凡ての御紀の訓例あるハ
従ひて此の訓をも定む可し然るを此ハ一見を比登
理能古と訓るハ我々の如き下様の言語もさうハ有けれ
尊き神の御上あどハ係ても申すまじ御事あり
又別ハ比登理古と云事有て此ハ右の一見とハ
違ひて孤獨の謂あり思混ふる事勿れ万葉六卷
廿二丁ハ不言問木尚妹共兄有云字直獨子亦有之者
者九卷三十丁ハ秋芳子字妻問鹿許曾一子二子持有

跡五十戸鹿見自物吾獨子之云ハ廿卷卅七丁ハ可胡
自母乃多太比等里之氏安佐刀埜乃可奈之伎吾子有
と有る是あり伊勢物語ハも一つ子ハさへ有けれハ
甚哀しう為給ひけり云々ハ有あども獨子を云あり
○最悪ハ伊登都良久志氏と訓り此都良久志ハ四神出
生章第二一書ハ次生素戔鳴尊此神性悪常好哭志マ
見えたる其事を第六一書ハ吾欲従母於根国只為泣
耳と有が如く其御祖神の御許ハ御在し坐す事を思
ふしたるす他處坐廢れ去給ハむ事を祈願ハせ給ハ
るハて己ハ其御指問より漏墮させ給へる其即此ハ
謂ゆる都良久志あるハて難面ツレナシあど同意ある可し万葉
三五丁ハ都礼毛奈吉佐保乃山邊尔四四丁ハ都礼毛

無將有人字カクオモ獨念尔吾念者惑毛安流香六十四小人皆
之念息而都礼母無有之聞尔十五秋田之穂向之
所依片縁吾者物念都礼無物乎十三何方御念
食可津礼毛無城上宮尔十九山吹乃花執持而
都礼毛奈久可礼尔之妹乎之努比都流可毛有と見え
五三十世間能字計久都良計久と有も同言ある若
あり延佳本此悪字を都良阿斯久志此訓記傳
從ふ可引平田史阿斯久氏と有れと古訓此
事あり此善惡の惡阿斯久氏と訓る猶更ある
りて降給へ事を詔給へ非ず御祖神の御許を離放
麓を見て不返し都良伎人より先超トと有る
都良伎も難面き事を云あり○不順教養私記小教
無頼之云小出た言と聞ゆ

養字之不留尔と見え金沢本小袁斯閉尔と訓たれ
か小官本小袁斯閉袁登尔と有小從ふ可一即教へ趣天神の御心別
けさせ給ふ御首有從奉と給ハすて国土小天
降とせ給小御事を詔給へるあり袁斯閉小御紀小
教をも訓をも誨をも用ひしれるを其熱語ハ統紀
第五詔小食国天下之政乎朕尔授賜讓賜而教賜詔賜
都良第六詔小白賜官尔治賜止白賜倭教賜於毛夫氣
賜第十詔小天下人尔君臣祖子乃理字教賜此趣賜止
尔有良志止第十三詔小於母夫氣教祈事不過不失家
門不荒自第三十詔小可仁可久仁念佐未事奈久

之教賜乃未仁奉侍止勅第三十二詔小諸能劣家人等
天教伊佐奈此進第四十一詔小如理久勸行波之教導
賜亦依天之云太子等坐之時利師止之教悟家多乃年
歷奴第四十五詔小汝等召都事方朝廷亦奉侍長狀
教詔曾止云今朕我汝等守教給年御命年衆聞食止
宣ふ有て教趣とも教悟とも教導とも教率とも云
続けられたり訓の起元章わハ教字を阿摩波比氏と
其委ハ注せられハ○自指間ハ古事記ハ自我手候
之有り其迦具土神段ハ次集御刀之午上血自手候
漏出所成神閻淤加美神次閻御津羽神之所見たる手

候を記傳五七十ハ多那麻多と訓ハ那ハ之ハ同
手心タナウチ手末タテと云例あり取と有ハ依ベハ和名
抄ハ指唐韻之指和名由比俗手指也和名於此指間
也有是あり名義抄ハハ切字を於典由比乃乃太
と訓ハ其ハ多那麻多の訓無きハ已ハ其言の絶たる
御紀ハ指間を多那麻多と訓金沢本ハ又一
多麻多と云訓見えたり○漏墮者ハ久役淤知尔志加
婆と訓ハ古事記ハも久岐斯子也と有ハて漏字ハ訓
を證すハ足れり猶右ハ引了自手候漏出と有ハ更ハ
其八十神段ハハ八十神覺進臻而矢刺之時自木

俗在重遠説小鳥
 謂利曰蘇於手是
 世と云ふい大か
 あり形体の短クある
 依て指間より漏
 給へれごう右の仕
 小傳ふるかこり有け
 何の俗謂か云か
 小餘子の例を引べ
 るや

候漏逃而去あど所見たるを記傳五七下十万葉十三
 丁小伯勞鳥之草具吉十七十一小保登等藝須木際多
 知久吉又二十波流乃野能之氣美登妣久之鶯云之亦
 有久具流と云ハ此久之を延たる言あれば久伎
 ハ久具理云事ありと云れき猶上七百七十六下注せる
 如く鶉草具理あり多迹具久ハ各久具理あり小
 も思合す可き事あり各義抄小漏字を母流とも
和多理とも和賀禰とも訓り久伎又○必彼英ハ御紀
久の言の無ハ當昔己ハ絶たる云
 の趣ハ其少彦名神を此ハ留奉りて唯御使して事ハ
 狀を奏聞元させ給へる其御答あり小依て如此詔給

へるあるハ古事記の意ハ此とハ異あり其文ハ故尔
 白上於神産日御祖命者答告此者實我子也於子之中
 自我子候久岐斯子也と有る白上ハ右八百小も注る
 如く白氏奉流と訓べき所あるハて白ハ其事の子
 細を申すを云以上ハ即其神を率て奉らせ給へる
 あり此者實我子也と有る此字ハ正しく其神を眼前
 小見行ハ御在ハ坐て詔給ハ出させ給へる御言あ
 るハ更あり自我子候久岐斯子也と有る我も右此あり同
 しく殊小親しく御目ハ觸させ御在ハ坐て詔給へる
 語勢自然ハ在るを合せ考ふ可し然れハ此ハ必彼英

又有りハ古事記の直ハ昇給へる方甚勝れる心ち
テ記傳十二下白上の白ハ右の形を云くと白すか
り上ハ次各昆古那神を高天原ハ率テ詣ビ御祖命
の御許ハ献るを云ふ下文御祖命の詔ハ此者実哉子
也と詔給ふハ眼前見給ひての御言あれハありと云
此たると実ハ然る言あり大人ハ実字を以て見し
たり予ハ此字を以て説
を成せるハ此ハ必彼矣と有る語ハ當りての事
あり又云く上の遠呂智段ハ彼都牟利之大刀を白上
於天照太御神と有ハ同ト彼と上ハ即其大刀を献る
を云り俗ハ唯白す事を申上之云とハ異あり上の言
輕く見ると可く都流と訓フ可し但○宜愛而養之ハ天孫
上字ハ多依麻都流と訓フ可し○宜愛而養之ハ天孫
降臨章ハ生天津彦ニ父瓊ニ於尊故皇祖高皇產靈尊

時鐘憐愛以崇養焉と有る統ハ似たり愛字米具美氏
と訓り仁徳天皇十六年御紀ハ欲愛是婦女と有る此
ハ同ト此語ハ殊ハ多く用ひて統紀第一詔ハ天下ハ
公氏子惠賜此撫賜年止隨神所思行佐久詔第二詔ハ
治賜慈賜利賈第三詔ハ此食国天下字撫賜此慈賜事者
辞立不在人祖乃意能賀弱兒字養治事乃如久治賜此
慈賜未業止奈第四詔ハ治賜慈賜未食国天下之業止奈
第五詔ハ此食国天下字撫賜慈賜波時之狀二尔從而
治賜慈賜未業止あど其余ハ甚多り此御在坐天皇と天下を治させ
給ふ事人親の己ハ若子を憐愍之育ふが如く為させ

給へるを云あり万葉七父母字美礼婆多布斗斯妻
子美礼婆米具斯宇都久志余能奈迦波加久叙許等知
理十一下二惠得吾念妹者又十九人毛無古郷尔有人
字慙久也君之戀尔令死十八五十父母字見波多布
乃久妻子見彼可奈之久米具之宇都世美能余乃許等
和利止可久佐末尔伊比家流物能乎と有り備米
具牟又米具志の言ハ目目苦目見目物を見目悲哀一
思目謂目其九二下三今日耳者目事毛勿見奉毛
答莫十七三下十妹毛吾毛許目呂波於夜自多具幣礼
登伊夜奈都可之久相見者登許波都波奈尔情具之眼

具之毛奈之尔波思家夜志安哉於久豆麻と有三情具
之眼具之ハ心苦目苦目心目悲目思目目目悲目
哀目見目其目物を愛目義ありけれハ
米具牟也即其同義あり事を知べきあり養ハ日足亦
其事ハ己ハ傳三百下八注せりき記傳十二八此且
而養之と有三詔ハ依目是時ハ末幼稚目坐目ける
ハ也有目云目云目然目言目高天原目生目出
させ御在目坐目程目無目始目此国目天降目御在目
坐目ける目如何目幼稚目御有目狀目伺目奉
御事ありける目但目其目下目然目後目者目其目女目名目毘目古目那目神目者
度目于目常目世目国目也目の目事目ハ目就目て目常目世目国目と

何国ハ在レ此ニ遠ク海ヲ渡リて往ク国ヲ云ハ此ノ皇
国ノ外ハ万國皆常世國有リ若シ此ノ名貴古神御祖神産巢日神ノ御子候ヨリ漏去坐ツる神此
般ノ文ヲ依テ其行方ヲ知ル此給ハガりト趣有リ然
るハ葦原中國ハ降坐ステ外國ハ放れ坐一ガ故
ありテ云レたレどモ其神ノ先外國ハ降坐て皇國ハ
依来ス説ハ甘みハず其ハ傳廿九卷四百八十九丁又
上七百六十八丁ハ注スカ如ク伯耆國會見郡天万鄉
ハ漏墮サセ給へリ者有リ備此里愛而養之ノ御事を古事記ハリ
故典汝葦原色許男命為兄弟而作堅其國ト所見ナリ
備葦原色許男命ト申奉スハ傳廿九五十ハ注スカ如
ク大己貴神ノ造國以前ノ御名ハ一己ハ其御父大
神ノ御許ハ御在一坐ける御時ハ其大神出見而告
此者謂之葦原色許男云ト有七石ト同一事ハ一即

平國の御時の御名ありければ此ハ初大己貴神之平
國也云々ト有ル也能合へり備為兄弟ハ右ノ里愛而
養之ト有小考合スルハ少彦名神ハ未幼稚ク御在一
坐けれハ大己貴神ノ御弟ト為テ日足一聞えサセ給
ハ其長あリセ御在一坐せて此ハ謂ゆ夫大己貴命
與少彦名命戮カ一心經營天下云々ノ御功を共ニ小
立サセ御在一坐べく仰詔一給ハス有リけり此ハ就
テ甚奇ト妙有ル御事有ハ其二柱神を為兄弟ト云
ハ大己貴神を此ハ其皇産靈神ノ御子ノ列不治給ハ
ス有リ然ル時ハ其少彦名命ハ大己貴神ト共ハ素戔

鳴大神を御父と仰がせ給ふ御事成れるありけり
然るに後少彦名神ハ常世郷小渡御在り坐て專外
国の方を主と作らせ給へども素戔鳴大神ヲ知を
建させ給へり等滄海原潮之八百重の内ありけれ
其天神の御子と成給へる御因ありずハ国土ハ在り
る諸神ハも順ひ仕奉るおとさ理あるを思ふ可し
又其ハ並びて大己貴神も然天神の御子の列ハ成り
せ御在り坐て其御徳ハ依給ふハ非ずハ御力限有て
然計ある大造の功績ハも得建させ御在り坐べ
るざる理あり其少彦名神の去給ひハ後の文ハも自

後国中所未成者大己貴神獨能巡造と有て二柱神相
並ハりて造らせ給へる時ハも劣らず能其事を成り
給へるハ全く其御上ハ皇祖天神の御靈相預て御
在り坐る故あり所以ハ遂因言今理此国唯吾一身而
已其可興吾共理天下者有之乎と宣給へハ其御言を
抑へて如吾不在者汝何能平此国乎由吾在故汝建其
大造之績矣と有て謂ゆる幸魂奇魂神の現出させ御
在り坐けるハ即皇祖天神の御靈ハて渡らせ給ふ事
上四百十注せるを以曉る可し其幸魂奇魂ハも
神ハも人ハも相預りて其功德を令成給へる神ハ坐

せども殊小其大己貴神小就て顯給ふと云も其少彦
名神の御事小就て為兄弟而作堅其国と有ハ天神の
御方より共小兄弟有御子と為させ給へるを以て
斯くも深き御愛一この御事ハ御在一坐おび有け
る然一天神小就ても素戔嗚大神小就ても所以有る
御事有るを平田氏一の説ハ擬兄弟の由云るあり
其意味無ハ非れども然二柱神の御上の云ハ
係れる淺しき事ハ非ず此御事あり及ハ其
幸魂奇神の御事をも詳一く曉り得又大己貴神の
奇係れる所ありけハ成一竟させ給へる御大業の化て
者過す可き事ハ非る者あり作堅其国ハ記傳十二
ハ天地初祭の時ハ天神諸の命以て伊邪那岐伊邪
那美神小修理固成是多陀用幣流之國として天沼矛

を賜へり若て菅泉段ハ吾與汝所作之國未作竟云
こと有る其未作竟一所を堅作めて功を竟ふとあり儲
今如此少名毘古那神を副て令助給ふハ彼沼矛を賜
ハ一同意ハて深き所以有ハ云れたり其二柱
御祖神の未作竟させ給ハざる所ハ傳二廿三二百九一
注一るガ如く素戔嗚大神を一國引坐神と申奉りて
大地の全体を作らせ給ハ又建邦之神と申奉りて國
土を固立させ給ハて大己貴神小讓聞えさせ給ハれ
ハ其為兄弟と申す少彦名神の御為ハも其大神ハ御
父ハ當らせ給へる事右ハ云るガ如ク又天神よりも

少彦名神の並べし大己貴神を御子と為させ給へる
故に其二柱神の御上の就て種々の御助共多在り其
ハ傳廿九百五十八丁ハ注るが如く出雲凡土記ハ飯石郡
多祢郷屬郡家新造天下大神大穴持命典須久奈比古
命巡行天下時稻種墮此處故云種神龜三年改字多祢と有る稻
種ハハも雨露霜雪の如く雲中より墮降し可き道理
の物ハハ非れハ此二柱神の兄弟と為て今国土を經
營し給ふハ當りて天神の御許より授聞えさせ給
へる御事申すも敢あらず其天神の御所為る事ハ伊
賀風土記ハ阿拜郡の故事を此郡始屬伊勢國云阿波

莊天照太神自天上下天之阿波主給五穀長蔓故名阿
波謂阿益者音訛也と有る此を引合せて證と為さ
者ハ右ハ謂内幸魂寄魂神の御事ハハ別放ちて
ハ心得べき事ありざるなり
素戔嗚大神より少彦
所見無一出雲凡土記ハ意宇郡出雲神戶郡家南西二
里廿步伊弉奈積乃麻奈古坐能野加武呂乃命五
津鉏神鉏所取三而所造天下大穴持命二所大神等
依奉故云神戶之云有を古史九十一段徵ハ此ハ大
己貴少彦名二神を指て二所大神と申す由を叢腫ハ
ハ説を成せるハ就て一應ハ然事ハ如く有る事ハ
此ハ別ハ子細有て少彦名神ハ直さる故事ハ
熊野杵築兩神の神戶の御事を申せる由傳廿三卷
二五十三丁ハ注○此即少彦名命是也と有る此ハ
産名命と申奉る御名義ハ傳廿九百四十一ハ已ハ注

奉此の大三輪神三社鎮座次第の右の此即少彦名
命是也之云より続きて此故稱曰午間天神也之云文
有り其の傳廿九四百八十注し奉るが如く此の自指
間漏墮者之見え古事記の自我午候久岐斯子也之有
る此御事小依て稱奉れり御名ありけり若て古事記
八十神段の謂ゆる伯伎国之午間山 之地ハ一也
決く此神の御祖命の御指間より漏墮^墮て御在り坐し
著せ給へり一地ありけり其神小因て負り地名
ある可き事之も更あり即和名抄の伯耆國會見郡天
萬御有る是あり然れとも此 午間之云号ハ出雲国

小も且りて其風土記意宇郡條ハ通国東堺午間刻四十一里一
百八十歩之所見たれ其刻ハ古ハ意宇郡賀茂神戶
之云地ありて和名抄に見えたる能義郡賀茂郷の邊
と思えたり記傳十六ハ引れたる六帖關歌ハ八雲
立出雲国の午間關如何ある午間の君障りるむ又待
暫一人知見むや我背子を留め難てが午間と号けり
堀川院百首小然りともと思ひしうとも八雲立午間
關ハ秋ハ留るまると有る御ハ伯耆ハ屬て刻ハ出
雲ハ屬るを以あり若て風土記ハ意宇郡羽島 有椿此
依木多
年木蔵 之云有る或抄ハ所謂指間島也島上有天神
齋頭焉

祠則少彦名命之有ハ今能義郡飯島村の海邊あり
れハ上の謂ゆる熊野之御碕の當り可ト又風土記ハ
同郡粟島有推松多幸木之有ハ通證ハ引る白井宗因
説ハ手間天神在意宇郡筑野村間瀉海中所祭少彦名
命也社号蓋出干此有也亦由有ハ間瀉ト云ト手間
瀉の略ト聞ハ右等を以て甚ト古ハ彼手間山より
始テ意宇郡の海岸ハ廣ク且れる地名有る事を曉る
可ト者有るゾクハ石の午間刻ハ郡家より四十一里
国郷郡家東南廿二里二百廿步云ト有ハ就テ求ルハ山
南廿二里云ト有ハ其ハ二郷の外ハ賀茂神戶郡家東
南廿四里云ト有ハ郡家よりハ能義郡ト云出テ其ハ地
あるを和名抄ハ意宇郡ナリ

賀茂郡ト云有る是ハ此郷ハ當り可ト右
の筑野村ハ筑陽川源出郡家正東一十里一百步云ト
と有るを和名抄ハ故其少彦名神をトモ手間天神ト
筑陽郷ト成れリ申奉るを以て神名式あるハ折任せて天神社ト申す
社の御在ハ坐ハ多クハ此神ハ坐有るハ其午間を略
さて申せるあり若テ諸国の内ハて天満天神トモ天
神トモ申す社の多在るハ菅家の御事を然申奉るハ
依テ此神の御社をも其ト相誤れる事少クハ此ハ
菅神の御事ハ由無キハ太抵此神ハ御在ハ坐すを知
べト但菅神の尊号をトモ天満天神ト申奉り又俗ハ
天満大自在天神ト申奉りテ期ル事モ此手間天神ト

云僧の有ける善巧方便金剛藏王天満天満大自在天神
の御在し坐す所並都率都率の内外院炎魔王宮などを
見巡ける天神天神を大正威徳天大正威徳天と申して十六万八
千の眷属有り云こと云事を或書の載たる例の佛
者の妄説多くして盡く信信あふハ足ざる物其其
其據無まふまふハ非ず右の金剛藏王と申す上七百七七百七
千注るが如く少彦名神少彦名神の御事あり都率内外院云々
ハ其少彦名神の金峯山内敷敷給へ幽宮幽宮の御事を
妄説せるある可し此所菅神菅神の眷属十六万八千を
率めて御在し坐ハ元其少彦名神の分身現身分靈神と顯ハれ

せ給へる其本宮還還ハせ御在し坐けるを不意
く見奉りて其御事を例の佛界の様混混不不云る者
あり然れハ右の南山翁の知命の賀を奉ると云ハ又
其金峯山此此神を見奉り一一と云ふが即其少彦名
神の殊所以所以御在し坐を見へ然然れハ此少彦名神
の午間天神を菅神の天満天神と崇奉れるも多在り
ぬ可ささ謂謂此此謂謂ゆる本地垂迹の如き所謂の御在し坐す
御事と見ゆれハ餘掛掛放れたりと云程の事ハ御
在し坐し今今其午間天神と天満天神とを分る法
名神の方と定む可可文文道不不給給へ又又ハ其氏族
小由有る方を何何れ菅菅神御御方と定む可ささあり

ハ更あり何と
無き旧社あり

△宮内省坐神三座
 坐名神大園神社韓
 日次新宮
 神社二坐と古く園
 神ハ大物主金羅神
 ハ大己貴命名命
 中て渡りせ給ひて
 式外紫野今宮三座
 を始て諸国ハ在り
 園羅神社ハ右リ
 三神ハて渡りせ給
 ハ由傳廿六頁ハ
 等しく注し奉り
 加し又式ハ

又古来祀来り少彦名神の社ハ菅神を合せ祀りて天
 神社又天満天神社と申すハ本より諸国ハ数多ハ御
 在し坐べりむ○少彦名神を斎奉る式内式外の社
 事申すと更あり
 この較略ハ神名式ハ謂ゆ五山城国綴喜郡天神社地
 祇神社と有ハ天神社を少彦名命ありと云ハ又式外
 愛宕郡鞍馬寺ハ由木社と申す御在し坐けり各跡志
 ハ所祭大己貴命一神位正一位天子不豫世上騷動の
 時教を此社ハ懸る故ハ号するありと云ハ少彦名
 大神諸国鎮座記ハ伊勢国由貴殿少彦名命と有を以
 て此彼共ハ大己貴命少彦名命二神共ハ斎奉れる亦
 子可事次あり五條天神條ハ考合す可事者あり其

五條天神社ハ神社考詳節ハ五條天神天子不豫或世
 上物忌之時懸教ハ此神前又鞍馬有教明神者是所破
 掛教之神也と見え此ハ少彦名命を主として相殿
 大己貴命ハ坐す由共ハ傳廿九二百六ハ委しく書せ
 りを以知へきあり若て又一座天満天神ハ合せ祀れ
 り其所由ハ已ハ右ハ注り又北野社ハ天満天神ハて
 渡りせ給ハ御事ハ普く世人の知る所あり然るハ其
 攝神ハ北野天神社と申す御在し坐すハ決く少彦名
 命ハ渡りせ給ひて其菅神ハ由有ハ御神あり事右
 八百二十ハ注しを以て曉り可ハ
 各跡志ハ北野天神社
 在本殿後東第一南向

此所地正神也土人北野殿と云ふ本殿
あり以前勸請あり云々と云ふ是あり
○神名式小大
和国吉野郡金峯神社名神大月次
相嘗新嘗 又有る此御社の御
事ハ一也傳廿九百八十
社志和尔雅等ハ少彦名命と有ハ古来相傳の説ある
小甲斐国山梨郡金櫻神社を俗ハ金峯山と云て所祭
少彦名命大己貴命素戔嗚尊と傳ハ武藏国多磨郡金
峯神社傳ハ少彦名命大己貴命安閑天皇或之神
武天皇と云
る亦此を藏主權現と異ハ一ハ神名を称奉了御事ハ
上七百ハハ注る、如ク此一書ハ以鷦鷯羽為衣と有
る由ハ縁て佐ハ木神とも申 奉此を託れる者ハ

る亦て諸国ハ在ゆる藏王権現ハ申すハ皆此少彦名
神ハ渡りせ給へるあり偕万葉一十六ハ三吉野之耳
我嶺尔又或本歌ハ三芳野之耳我山尔と有を十三
ハ同ト御歌を三吉野之御金高尔と有り又後の物
ハ唯ハ御嶽とのと云るハ此山の世ハ名高ハ故ハ
て此巖山を山と云て此巖を云ざるハ同ト若て石ハ
謂ゆる耳我ハ借字本字ハ眞巖ハて甚峰ハ可畏ハ
山の由あり又御金高とも金峯とも云ハ就て説有り
其ハ傳二十六十ハ注る宝鏡開始章第一一書ハ謂ハ
る天香山を古事記ハ天金山と有り然ハ伊豫風

土記ハ天加具山の事を自天天降時二分而以片端者
天降於倭国以片端者天降於此土因謂天山ニ有レ大
和国あり彼三山の中あり天香久山是あり其始
上天より降れり時ハ甚大あり山ありつつむを
大和風土記ハ山跡國者往昔山岳多而平地少所治天
下大穴持命共少彦名命巡行此国鑿金山開谷為平夷故
云山跡也略而後從平城旧都至金峯山下浩ニ平陸而
其間唯有畝傍山耳梨山天香久山而已故是謂大和三
山也ニ有を以て考合するハ其国中ハ右ハ三山を僅
小遺して其天進り高き山共をハ平夷ハ作成して給ハ

と為てハ他所ハ移し給へると見えて葛上郡ハ高天
山の名有レ此ハ金峯の名有レ其降来ル天香山の
中あり天金山と云て彼直鐵を採ルれハ山ハ此金峯
ありト思ゆる由ハ已ハ傳ハ廿九百八十注カ如シ
實ハ真鐵ノ之ありず黄金白銀赤銅等ハ至リ迄其
廣大あり方境悉くハ滿地ハ敷テ凡天下ハ在ル諸
山の中ハ此金峯許リ金氣ノ多キ
人の知ル所あり故考證ハ在吉野山村今称余精明神
土人云吉野山地主神金御高之号起於此神社ニ注シ
釋徒ハ金峯山ト号するハ弥勒佛出世ノ時地ハ敷ベ

今次ハ百七下注イ
賀國阿拜郡敢國
神社大少彦名
命金山姫命相並
給へるふし引合
て思ふ可き者あり

き金此山に在る故ありと云ふ妄説を作出せるも実
ふ其山皆づる金山ありを以あり又傳十五三
百七十
下注せし式外天川宗像神社の御神ハ一も十七六
五下注せし如く黄金を掌給ふ神に坐す此麓の上
古より御在り坐も共御力を合せ御在り坐山依れ
るるど悉ふ少縁の御事ハ一御在り坐ざりけり
又御嶽の云事ハ赤深衛門集六條の源中將
経房中將と花見むと契て卒尔源中將ハ御嶽精
進して如何なる花見ハ歩行給ふやと云たるを如
何云へ越り有し代りて我未思も立ず花櫻君や御嶽
の山も越り有し又心わも非て歎く吉野山君を御
嶽の程無しを見え源氏夕顔巻ハ御嶽精進之
事有る河海抄ハ御嶽ハ金峯山也と注させ給ひ細流
ハ枕草子ハ哀ある物美男の御嶽精進したる定りた

る人具したるも逢ぬ夜ハ隔つるを苦しき事ハ
う思ふ可きもの殊の外ハ嚴しく隔成して獨居て
打行ひたる曉の礼拜の程甚しく哀ありと見え又御
嶽精進ハ大和の金峯山ハ十日精進して参り事
成り今も御嶽詣をハ為る者ハ行場ハ祭神の説ハ石ハ
注るが如く諸説を合せ試さる少彦名神を本として
其相殿の左ハ大己貴神あり右ハ素戔嗚尊も安閑
天皇とも神武天皇とも三神ハ傳ハ此を今何れと
定むる事を得ずと虽も此三神を一座と為て
と別れたり見えてむあむ宜しう可き然るハ素
戔嗚尊の御事ハ一も傳廿八下注るが如く此大
神上古ハ吉野郡ハ宮敷坐り狀ありけれハ由有る事

申すも更あり其安閑天皇の御事ハ神社考詳節ハ古
今皇代圖説云宣化天皇三年和州金峯山明神出現世
稱安閑天皇之靈也ト有ハ彼菅神の此山ハ坐ハ等ト
ク此天皇崩御の後ハ此山ハ御在ハ坐ハキ所以有テ
神積坐ヲ驗共ト有けるを以テ神代より此金峯神を初テ現れ
給ヘリ狀ハ云々有リ可ト若テ神武天皇の御事ハ其
戊午年御紀ハ是後天皇敬省吉野之地乃從菟田穿邑
率輕兵巡幸焉ト有リ此御時ハ御迹を留させ給ヘリ
あとの由ハ縁名神祭條後ハ鎮ハ御在ハ坐ハキ然レハ
も臨時祭式ハ名神祭條金峯神社一座ト有テ其祭神を護羅

の一座ト爲テ祀ラセ給ヘリあり神階の御事ハ文德
天皇實録ハ仁壽二年十一月辛丑特加大和国金峯神
從三位同三年六月己巳以大和国金峯神預於各神裔
衡元年六月甲寅朔以大和国金峯神預於相嘗月次並
神今食祭也又三代實録ハ貞觀元年正月廿七日甲申
奉授大和国從三位金峯神正三位ト所見たり同年八
月三日丙戌大雨遣從五位下行備後權今藤原朝臣
山陰外從五位下行陰陽權助兼陰陽博士滋岳朝臣
川人等於大和国吉野郡高山令修祭礼葦仲舒云々有ハ此
山ハ就テ令祭ラレたるハ非ズ今も近国の農民

祭法云類膳賦
嘗五穀之時於宮
食之則縣内清淨
處解之壤之故用
此法

等此金峯神をしも農作を守給ふ神と申して夏日の
詣り事あるが其山の御土を賜りて墾有る田入る
時ハ忽ち驗有る事遍く人の知る所あり但董仲舒祭
法と云ハ疑ふくハ我が古法有るを術ハ此ハ在り
文ハ彼ハ在を以て然書されたるありとも必彼ハ
取らせ給へるハ非ずして事の自然ハして同ハさ
者ところハ聞えなれ但其金峯神社ハ右ハ云るガ如
麓ハ在て其山頂ハも藏王権現と申せる御在り坐
役ハ角ハも其所ハ祭れる者見たり又吉野山
ハも藏王権現と申すも有る就て金峯神ハ其ハ別
ハして藏王と云ハハ角ハ時ハ始て現給へる物ハ如
く云あるハ其トキ僻説ある者あり右件云るハ如
少彦名神ハしも佐木神と申して御身の甚小き神

ハて御在り坐を藏王と御名を改め夜又の如き異
き大像を作りて世人の耳目を新ハ為つるハ実ハ彼
徒の所為ハ成り○神名式ハ城上郡大神大物主神社
ハ月次相と有る此ハも少彦名神御在り坐る事ハ大
尊新嘗
三輪神三社鎮座次第ハ奥津磐座大物主命中津磐座
大己貴命邊津磐座少彦名命と有て其大物主命大己
貴命ハ神代より御鎮座ある由傳ハ九二十ハ注るガ
如くあるガ其少彦名命ハ御事ハ同書ハ磐余甕栗宮
御宇天皇勅大伴室屋大連奉幣帛於大三輪神社祈禱
無皇子之儀時神明憑宮能賣曰天皇勿慮之何非絶天
津日嗣哉上古吾典少彦名命戮力一心所以經營天下

其所以而今少彦名命未臨吾邊津磐座與吾及和魂共
能可敬祭守皇孫濟人民矣於是起立磐境崇崇少彦名命
于時天皇元年冬十月乙卯日也之所見也是是乃
貴大神諸國鎮座記小三輪外大社大己貴命與大社
幸魂奇魂神若宮少彦名命と云り但鎮座次第小大直
祢神社大田根子命也云志賀穴徳宮
世大三輪君大友主命依靈巖立社奉禰之と有て下
俗云若宮と見えたり
其説違へる小似たり
○大和國式外添上郡園韓神
社三座之有り大倭神社注進狀小率川神社の別社之
為也旧記云件神等煮爰鳴尊之子孫守疫神也傳聞園
神者大己貴命之和魂大物主神也韓神者大己貴命が
彦名命也而神經管天下為顯見蒼生則定其瘡病之方

紫野今宮三座社家者流如右と有て此ハ諸國小在四
園韓神社の本小御在坐す由傳廿六九下小委
く注し奉るが如し又上七百八下小注るが春日の
小社小も此少彦名神を祀り其ハ春日社記小若宮
外院小八所金峯山藏王権現と有を小社記小左良
氣明神と作るハ佐々氣明神と有つるを誤れり
了可きハ注式小三十八所明神所謂藏王権現其南裏左祭氣
明神と有つて著けれハ此ハ金峯神社を勧請小事
灼然小者ありハ又大同類聚方十一小古知陰藥倭
國上郡山村已知部之安室之家二傳流所之方元者少

又和泉郡楠本神社
 社名志小在包將
 今和天神之有也
 同神、其出さ小
 摩多村と云有る者
 温泉此小出たり云
 す由有て聞内大同
 類聚方小楠元樂
 山城國等名郡人
 鴨村直直長部

摩多乃方也と云事と有て若右の蜂田神社

彦名命之神方又太自備藥倭國漆上郡多治比連直久
 三宅麻呂奉流方元者少彦名命之神方之有、其地小
 神代より傳、れる神方之見えたり右の上郡の上小
 漆上郡と有、あり可、和名抄郷名小 〇神名式和
 漆上郡山村也末無良、有る是あり
 泉國大鳥郡蜂田神社 御在、坐を大同類聚方十八
 小蜂田藥和泉鑿大鳥郡蜂田藥師和雄之奏流方元者
 少彦名命乃方也と有を以見る小蜂田藥師、其業の
 神を祀れるあり可き事知泉志小在平井村云、今謂
 天神と有、て其少彦名神の坐を知へきあり、和名抄
 郷名小蜂田波知と所見たれ、其地名を以て神社の

稱、ハ為、る者あり、姓氏録和泉國神 小蜂田連大中
 臣同祖と見え三代實錄貞觀六年條小和泉國大鳥郡
 人蜂田連瀧雄改居云、と云事を有、不就、志、余按
 蜂田社者蜂田連祖神天兒屋根命也と云る、然、言
 ぶれども主神を少彦名神と見え時、當郡小大己貴
 神以下の神等の多く御在、坐、り相叶へ、心方才
 然れども今、試、云、あり又和泉國諸藩漢、蜂田藥
 久又蜂田藥師吳國人都久師吳主孫權王之後也、見
 久利と有、れ、蜂田、醫師の多く住、へり、地あり、と
 〇神名式小攝津國東生郡難波坐生國魂神社二座
 並名神大月の御事ハ己小傳廿九百十、注、奉、る、が
 次相嘗新嘗

如く大國魂神の御事にて渡りせ給へるは大同類聚
方廿二の高津藥津國難波生國魂神社仁傳留方元
者少彦名命之方也と有は此の二神の外は從祀
として御在り坐る可し○又武庫郡廣田神社大月神
新嘗ハ傳廿九百八十ハ注るが如く天照太神の荒
魂にて渡りせ給へるは民部省圖帳の廣田大神神靈
少彦名命蛭見以右兩神為二座相殿大己貴命國韓神
也と見えたる蛭見ハ右の荒魂神を荒夷神と申して
異國を降伏せ給ふ御功の資れる御名あるを彼蛭見
の事ハ混へたる者あるが右の如くハ少彦名神の後

ハ合せ祀れる者と所見たり又式ハ有馬郡有馬神社
傳廿九二百五ハ引る風土記ハ有馬神社主田八十三
束三毛田所祭大己貴并少彦名神也と書し又同郡湯
泉神社大月次傳廿四二十ハ注るが如く色葉字類抄
ハ温泉三和社舊記云大神温泉鹿舌三像大明神者是
一体分神也故名号三和社崇神天皇御宇之時七年始
被定置神戶略ハ所見たる其鹿舌神ハ攝陽群談ハ有
馬郡香下村羽束山香下寺の本尊にて救世觀音の垂
跡ハ少彦名命也と有る是れ右の三神を合せて大三
輪三社ハ所祀ハ等しく即國韓神と合体にて渡りせ

せ給へるあり又式外風土記小同郡布敷莊新羅神社
至田八十三束所祭少彦名園韓神也と申すも見内此
少彦名神をイハ新羅神と申す由ハ傳廿九四百九
注し奉れり○神名式ハ伊賀国阿拜郡敢国神社大八
傳廿九四百五十七ハ注すカ如ク古風土記ハ此郡
始屬伊勢国云阿波莊天照太神自天上下天之阿波主
給五穀長蔓故名阿波謂阿孟者音訛也と見え摠国風
土記ハ拓植此山有神奉甲敢国所謂少彦名之命也と
有て此御神の為ハ天上より粟種を天降し授給へる
地ありければ甚止事無きを又拓植ツミエと云も養蠶ハ為

ハ云ハ相模風土
記ハ高座郡美濃
郷南宮神社至田
三十七束三字田
所祭金山比咩也
共伊賀国敢国同
神也

ハ此を殖弘めさせ給へる謂ハ依る事と所見ナリ然
るハ一宮記ハ敢国神社号南宮金山孫命也と見え頭
注ハも敢国南宮也金山姫命と書ハ駿河風土記ハ鳥
渡郡敢国神社奉祭金山比咩共伊賀美濃社同ハ有
伊水邊故ハ本宮ニ座少彦名命南宮金山比咩命當国一
宮ハ一本社ハ少彦名命号正一位敢国大明神南宮
ハ金山大明神金山比咩命あり圖融院貞元二年二月
修造の告ハ事有て此南宮明神を一宮敢国明神同所
ハ崇奉ハ故ハ南宮山ハ一宮山と成侍ハ南宮山ハ今
の小富士山是あり取と有る如クハ後ハ合せ祀れる

小て主神ハ御在^一坐さる^二状あり但右の如く金山
孫命とも金山此咩命とも傳りたるハ實ハ其ニ柱
神あるを各一柱を漏せざる可^一其南宮之申すハ
美濃国不破郡仲山金山彦神社^{名神}を永万記ハ南宮
社と見えたり此より^一過奉^二を以て其本宮を称を
用ふるあり^一備此少彦名神ハ右の南宮神の相並び
御右^一坐す御事ハ右八百三^一注^二奉^三が如く金峯
神社の例にて必御力を戮せ給ふ可^一所以の有を以
あり故思ふ右の駿河風土記ハ延長ハ奏上れ書
あり小己^一當社を金山此咩命と云り然る時ハ貞元

ハ唯同社ハ合祀^二と云の^一小て其南^宮山ハ御在^一
坐けり御時よりして等^一敢^二国神社^一の称有て共ハ
祀ハれさせ給へる御神ある可^一御事灼然くあり有
ける伊水温故^一宮村^二小^三富^四土^五山^六往昔南宮大明神垂
山^一雄^二命^三ハ^四天^五武^六天^七皇^八御^九宇^十美^{十一}濃^{十二}国^{十三}
南宮山より^一勸^二請^三云^四と云り^一神階の御事ハ三代実
録ハ貞觀六年十月十五日^一授^二伊^三賀^四国^五正^六六^七位^八上^九安
部神從五位下同九年十月五日^一授^二伊^三賀^四国^五從^六五^七位^八下^九敢
国津神從五位上同十五年九月廿七日己丑^一授^二伊^三賀^四国^五
從五位上敢国津大社神正五位下と有り備敢ハ右の
風土記の説の如く阿波の轉あり又此を拓植と云ハ

和名抄の阿拜郡拓植郷有る是あり此名甚古くして
倭姫命世記皇太神御遷行の所小敢都美惠宮と見え
儀式帳の阿閉拓植宮と作き天武天皇元年御紀の
小到積殖山口と見えたり其拓ハ和名抄の毛詩注云
桑拓漢語抄蠶所食也と有る是あり拓植又云時ハ其
桑拓を殖生す由ありけり必此を殖立たる主無
く有べりさるを以推索る小上百下注るが
如く必天下經營して大神二柱の御所為小因此事
著りけりハ當社の故事小合せて又此を思ふ可き
者ありけり若て伊水温故の少彦名命神体仙人之

影像也金山此咩命神体蛇形蟠容儀也と云ふ少彦名
神ハ此ハ以鷓鴣羽為衣と有る恰も仙人の影像と
も云つ可き狀ありけるを金山此咩命を蛇形小作れ
る女神小坐る故ハ叙徒の俛小然異しく作成し奉れ
る小や有む且右ハ注る如く彦神とハ姫神とハ申
す傳の有るハ實ハ二神を一座として祀入るを後ハ
姫神と云方ハ定りてよりの事と所見たり又相殿ハ
甲賀三郎兼家主を祀ると云り伊水温故ハ云く甲
天皇御宇信濃国守諏訪源左衛門源重頼嫡望月信濃
守重宗二望月美濃守負頼三望月隱岐守兼家と云ふ
健御名方命の苗裔あり父子四人延喜三年八月衆山
小遊小兼家若狭国高懸山の窟中ハ入て鬼輪王を射

今大同卷聚方十二
子鹿華摩伊賀国山
田郡木城記墨守美
之元彼少彦名命神
乃神樂と有ハ此由
百ハ非トハ傳當
社

殺す時小嶋男二男二人として兼家を欺き龍穴小八
年漸小窟中を遁れて江州甲賀郡小津細一朱雀二
家ガ威力を恐れて自害す同八年兼家ハ将門ガ事ハ
軍功有て甲賀郡主ト成り甲賀近江守ト封じ刑部卿
ト任す云々後常国の太守ト成て諏訪を勸請し神体
を細む云々云々○又神名式小謂ゆる伊勢国度會
郡磯神社多氣郡伊蘇上神社ハ大己貴神少彦名神小
て渡りせ給へる申上二百六十注一奉さる如く又壹
志郡射山神社ハ榊原温泉由来記ハ本名射山神社或
ハ湯山神社一名伏山御前祭神二座祭神大己貴命少
彦名命云々云々有る此御事傳廿九百八十注
一申せり云々又汝貴大神諸国鎮座記ハ伊勢国御先

○神名式小謂ゆる
但馬国美奈郡井
上神社二座有る
其説の合する事有
て己上九十八丁小
注せるを又次八百
六十八丁小注云
を考合す可し

之三神中大己貴命左少彦名命右少彦名命有る但
此社式内の何れの神社ハ當れり知す又伊勢由木
殿少彦名命とも見ゆ又凡工記ハ員辨郡井上神社左
田十七東三畝三字田考謙天皇四年所祭園韓神少彦
名神也土地有疫疾則来此社神前掛長繩白木綿祈
其疾疫其效驗不迴頭也之有ハ式外有る○又神名式
小所見たり志摩国答志郡粟島坐伊射波神社二座
並ハ少彦名神之大己貴神ハ坐べき申上百十委
ト云れハ就て見べし○尾張凡工記ハ中島郡鹿瀬
山有神号敢田見社所祭少彦名命也之有る敢ハ石小

文德天皇實錄
 嘉祥三年七月
 丙子朔丙戌遠江國
 鹿苑神授從五位
 下三代實錄不與
 二年正月廿七日
 授遠江國正五位下
 鹿苑神從四位下
 見
 たり

謂ゆる伊賀國散田神社より移し奉る可く田見
 八田持りて此神の此地より農作の事を起させ給
 へるあとの御事小因れる社号あり可く御事上二
 九十小注せざるを以知べし○遠江凡土記小濱名郡管
 沼神社仁徳天皇二年甲戌三月所祭園韓神少彦名命
 也と有る此の式外あり又神名式小磐田郡鹿苑神社
 凡土記小曾能郷香園神社或作鹿 圭田二十八束三字田
 欽明天皇三年壬戌自官園韓神奉代主兩神所祭也
 神戶巫戸祝部宅と有り又葦原郡敬滿神社名神 凡土
 記小敬滿神社圭田六十二束三字田有餘並仁天皇二

十六年所祭少彦名命也と所見なり文德天皇實錄小
 仁壽三年十一月癸丑以遠江國敬滿神靈預於名神三
 代實錄小貞觀二年正月廿七日戊寅授遠江國從四位
 下敬滿神正四位下と有り但統後紀小兼和十四年八
 郡人秦里成女一産二男一女と云事有る其秦氏ハ姓
 氏録左京諸蕃上小太秦宿禰秦始皇帝十三世孫孝武
 王之後也男功滿王足仲彥天皇八年來朝云と有り
 種属あり功滿と敬滿と言相違りけり其靈を
 祀れるりとも思ゆれども右の凡土記の如くハ無仁
 天皇御世ハ少彦名命を祀れるあり小就て思ふハ其
 神の從祀として功滿王を祀れるあり給へるあり
 為小本の少彦名命の御名ハ隱れさせ給へるあり
 有む○神名式小駿河國益頭郡飽波神社和名御名
 小飽波阿久と有り凡土記小飽波神社大鷦鷯天皇六

年戊寅十月所祭少彦名神也神貢八十二元三字田之
 見えたり又式外同記中安倍郡葛間郡神社廣野姫天皇三年己丑
 所祭少彦名園韓神也之所見たり此御奉承就て説有
 の傳廿九二百五十九下禁厭の所小己注せり又式外同
 記小鳥渡郡加美島或神賀美志摩之社推足彦天皇五
 年乙亥五月被奉官幣少彦名園韓二神祭也又富士郡
 權原豊麻神社二座所祭大己貴命共少彦名命也仲彦
 天皇二年癸酉十二月之旬始奉官幣之有る此故事
 己の傳廿九百六十九下注奉れり右の仲彦を本小
長彦と誤れり其仲哀天皇元年庚申申二年ハ
 癸酉小当れバ足仲彦天皇の足を略きて仲彦と書

つゝを其音の近き任小
長彦と誤れり者に見ゆ ○神名天の甲斐国山梨郡
 金櫻神社傳廿九百六十九下注ガ如く即金峯山とも
 御嶽山とも云て祭神を藏王権現と申せり例の
 如く少彦名神ハ渡りせ給へるを以る社説ハ所
 祭少彦名命大己貴命素戔嗚尊三神ハ御在ハ坐て大
 和国金峯山より勸請ス所あり本社より七里許頂上
 小大なる巖神の立せ御在ハ坐て遠く此を望む時ハ
 恰も衣冠を著させ給へる貴人の如き狀ト甚ク奇
 異ある神像ト渡りせ給へり其金性大明神と申す
 日本武尊ハ坐す又櫻大門とて古木の櫻多ク僧正

神代卷
 國體神代卷名年
 也位雄略天皇十七
 年之勅而始行神
 禮有神家巫戶祈
 病災莫不驗祈
 田莫不實有
 式謂内禰禰田
 神社是あり又同
 郡

隆禱歌小古の吉野を移す御嶽山然とる黄金の花も
 咲くめ絶頂の御福ハ藏王権現ありて御嶽社の本宮
 ありと云り大同類聚方小奈川ハ藥甲斐国山梨縣主
 乃方尔豆云々其元波少彦名命御傳斗之と有也當社
 小由有る事あり又上四下注るが如く同郡大井
 俣神社ハ例の如く事代主神小渡り世給へるを其名
 勝志小本社南方有天神祠當社鎮座以前所祀地主神
 也奈神少彦名命也と云るも旧社と聞内右の金櫻神
 大明神を日本武尊と云説ハ大和ハ金社ある金性
 精大明神と申す説又異ありけハ後人の何心も無
 取其称を吉野の本社ト
 ○武藏風土記ハ荏原郡赤坂

山吹ノ貴大神諸
 國鎮座記ハ其
 名年大己貴命
 二柱神也と云り

莊小六天神武吉 圭田三十五束三毛田天武天皇三年
 甲戌十一月始行神礼有神戶巫戶所祭大己貴典少彦
 名園禰神也号小六者以古呂玖固之名故也と有る此
 ハ式外あり又豊島郡神田神社坐るをハ 儲神名式小多磨郡布多天神社今布田村
 小布田天神と申して所祭少彦名命ありと云り又式
 小謂ゆる大麻止乃豆天神社ハ傳カ九百七注るが
 如く風土記ハ大麻止乃知天神社圭田六十七束六字
 田所祭大己貴命也安閑天皇乙卯年始尊官社花時以
 花祭之新編時以新編祭之と有り然るハ式社考と云
 物ハ御嶽山御嶽大明神也少彦名命と云るハ合せて

其金峯山御嶽社大宮司家説の祭神は彦名命大己
貴命安閑天皇或云神武天皇合殿也号藏王権現聖武天皇御
世日本靈地三芳野社を丹波大和武藏の三国に祀
給ふ神ありと云り但此大麻止乃豆天神社と申す
大和国十市郡天香山坐攝眞命神社を下小大麻等乃
知神と有て此謂ゆる下庭神二座の中なる攝眞智
命の御在り坐て別ありとも凡土記に混同小為り
る者あり其將別謂れ有る事あり由傳廿九八
下七注れハ考合す可き事共あり然れハ右の神等
の鎮坐を神代下りの御事と見て安閑天皇御世と云

其祭祀の始を云ある可く聖武天皇御世ハ其相
殿ハ安閑天皇或云神武天皇を被祭加たるを云ある可き
但或説ハ當郡府中六所明神三殿の中央大己貴命
景行天皇御世ハ始て祭ると云ふ其社春時花を以て
祭り秋時新稲を以て祭ると云ふ是此大麻止乃豆天
神社ありと云れども府中社ハ式の小野神社ハ
本殿大己貴命相殿ハ伊弉諾尊伊弉冉尊瓊杵尊大
宮貴命布留明神の六座あり此ハ別あり且春時ハ
花を以て祭ると謂ゆる花鎮祭ハ諸社ハ多き事あり
由傳廿九卷百十注れハ考合す可し
又神名式ハ同郡阿豆佐味天神社有を大同類聚方ハ
阿川差民藥元波大己貴命乃神方也又阿豆佐見藥阿
倍朝臣廣津麻呂乃方元波大己貴命云々と出たる二
方共ハ大己貴命の御名ありハ其神ありと云つと思ふ

小天神と申す事相叶ハズ然レバ此ハ少彦名命（イハヒコノミコ）祀
礼スル所ノ稱ある所也或有云又式小穴沢天神社見
由式小穴沢天神主田三十六束三毛田孝安天皇四年
壬辰三月所祭少彦名神也之所見九ノ〇上総国小常
世神と申す有り少彦名神あり云々三代実録小穴慶
元年閏二月廿六日 授上総国正六位上常世神從
五位下と有り又風土記小長柄郡谷部御足間神社主
田五十三束所祭少彦名神園鞆神也齊明天皇丙辰二
月始奉主田加神礼と見内〇神名式小常陸国鹿島
郡大洗磯前薬師菩薩神社名神傳廿九
五百小注

如ク文徳天皇實録小齋衡三年十二月庚午朔
此二戌戌常陸国上言鹿島郡大洗磯前有神新降初郡
民有煮海為鹽者夜半望海光耀屬天明日有兩怪石見
在水次高各尺許体於神造非人間石鹽非和異之去後
一日亦有并餘小石在石左石右似若侍坐彩色非常或
形沙門唯無耳目時神憑又云我是大奈母知少比古奈
命也昔造此国訖往東海今為濟民更亦未歸と有即
此神社の権輿あり然り小大同類聚方廿七小久須志
藥常陸国鹿島郡大洗磯前薬師菩薩神社之神方と有
て右の齋衡あり以前の大向小成以了書不然事

の有ハ疑ハシキ事アリ今傳ハルハ延長本あり
 けれハ其時ハ書加レたる物ありわが有べき諸頭
 注ハ當社ト大己貴命ト一那賀郡酒列磯前藥師菩薩
 神社名神大を大彦名命ト為ス事ありが卅八社鎮座
 云物ハ右の大洗磯前を在水戸城之東三許里宮田郷
 今磯所祭大己貴命大彦名命を云ハ酒列磯前を在平
 磯村酒列磯前所祭之神 大洗磯前共同大己貴命大
 彦名命二神也通謂之酒列大明神ト有レハ兩社共ハ
 此二神をハ齋奉レるありけり若ク文徳天皇實録ハ
 天安元年八月乙丑朔辛未在常陸国大洗磯前酒列磯

前神等列於宮社ト有レハ酒列磯前ハ
大彦名神を主ト 大洗磯前大己貴神を主ト 二神共同時ハ

ハレさせ給ヘスハコソハ有つた也 同年十月乙卯朔己卯

在常陸国大洗磯前酒列磯前兩神号藥師菩薩名神ト
 有ス其藥師の号ハ傳サレ二百ハ注カ 如ク此二神
 を然稱奉レルハ此ハ謂ゆる為顯見蒼生及畜産則定
 其療病之方ト有レ依レテ御名あり菩薩ト云稱ハ不
 須也山目醜めハ汚る事あり當昔高きト昇レキ
 也胡神ホトケを尊ハぬハ無レシト其稱を被用たりハ
 忌ハシキ事ノ極メハ在レト也當昔稱奉ル意味ハ

無上く尊と奉る心用ひありめども今も至りては甚
良ハしうらざる事ありむの信友主説ハ石の齋橋三年
ハ其石の形依て云る物あり可し如見立たるハ依
て菩薩号を付て甲せるあり可し云り若然とむハ
ハ菩薩号ハ国より請ふハ依て世ハ高きハ大知國壘坂寺
ハ古ハ神作ハ石像ハ在る五百羅漢と云物ハあり
の後山又讚岐國弥谷ハ在る神人の像を彫たる物あり
佛像ハハ非ずして古ハ神人の像を彫たる物あり
之云り其形或ハ沙門とも云べき状ハ見ゆる然
る異しき名を呼ぶ事あれども彼意須此ありを著さ
せ御在し坐むハ御頂の方キハして外あり其心ハ
て見ると時ハ沙門ハ形像せりとも云べき状ハありハ
有る見む時ハ心得おとて云あり又那賀郡阿波山上
神社ハ卅八社鎮座ハ今属茨城郡在大山村鄰于栗山
村古老傳ハ言昔者大山村呼為上栗山栗野村呼為下

栗山祠即在二村之上故祠有阿波山上之稱其所祭少
彦名命高皇產靈尊子也と有り然れども此ハ別神也
むむの説有て上七百二十ハ注れハ孰れハ宜しきを
取べし○神名式ハ近江國蒲生郡沙沙貴神社和名抄
ハ篠筥御有る是あり沙ハ貴の地名ハ上七百七十ハ注
るハ如くハ鷓鴣羽為衣と有る此御事ハ依りるあり
其沙ハ貴大神諸國鎮座記ハ第一少彦名命第二大鷓
鶴尊第三狹城山君是孝元天皇皇子大彦命也第四
敦實親王是宇多天皇第七皇子也と有り頭注ハ仁
徳天皇一説ハ少彦名命と有れども一説ハ方正説ハ

△下八四八の云々が如く紀伊国淡島神社を古島より加太の辻奉りせ給へり此天皇の御事なれば此御事な因て此の從祀に成りせ給へるなりけり

して少彦名神神代よりの鎮座あり可き由傳廿九百
十二少彦一注奉るが如く若て其仁徳天皇八大
鷓鴣尊と申奉りて上十七百七注せり鷓鴣の瑞の依
て大御名を負せ御在り坐か地名社号共の同下まが
政の後合せ奉れり一と思ふ所然らず第三大彦命の孝元
天皇七年御紀小大彦命是阿倍臣膳臣阿閉臣狹城
山君略中凡七族之始祖也と有て統紀以下の御紀共の
都司あり然るも此多うりけり其因縁に此
小祀にれせ給へるあり可し第四敦實親王ハ鷓鴣
文集小宇多天皇五代孫從五位下左近將監源成賴初

△又式小見えたる伊香郡布勢立石神社少彦名神あり可し下八台外立石神の所小注す可きあり

住近江国佐木莊嗜弓馬其孫源治大夫經方初為此
社神主其嫡男兵庫助季定為武士續其家業次男行定
為神主掌社事二流相分其技業連蔓於本洲而延及他
邦者不可勝計也と所見たれば校城山君と佐木
氏と此地あり故に此社を齋奉りし其祖
神を此に合せ祀りて氏社と為つる者ありけり記傳
卷三十八下少彦名命と云ハ神代紀に此神鷓鴣羽
を衣として有る因ての附會ありと云れつるハ
諸國に在りて少貴神社の本ありて○神名式小美
此大神の本宮あり事を思落されたり△濃
濃國惠奈郡惠奈神社大同癸聚方小惠奈山藥越國三
志麻雄之家傳方也元者少彦名命神方也と見えたる

小式社考の在惠奈山上去落合馭南三里許今称惠奈
 山権現之有る権現の例の藏王権現の御事あり可し
 允諸国小神名を失ひて権現之社多し一ハ藏
 王権現あり此ハ多ク高山不在少名神を祀れ
 謂ゆる水分神を祀りて熊野権現ハ多ク水邊に坐るハ
 九山口の落口あり立せ給へるハ其水分神ありと
 知べし三ハ山王権現あり此ハ多ク里中ハ立せ給
 へり其外ハ某権現と申せられ混るハ事ハ無
 右の三ハ殊ハ差別も難知事あり故ハ其心して
 思分べき御事あり○信濃国木曾御嶽ハ大己貴命少彦名命
 二柱神小渡りせ給ふと云り此御事傳廿九百七十
 注り○神名式山上野国勢名郡赤城神社名傳廿六
 百二十九百七十ハ注るが如く上野国志と云物ハ大
 下百二十九百七十ハ注るが如く上野国志と云物ハ大

己貴命之有り然れども夫木集鎌倉石大臣上野の勢
 多の赤城の韓社倭ハ如何之迹を無けむと見え諸神
 本懐ハ赤城山三所明神と書され謂ゆる園韓神三
 座を祀りありけり神階ハ統後紀ハ兼和六年六月
 甲申奉授上野国無位赤城神從五位下三代實録ハ兼
 和九年六月廿日授上野国從五位上赤城神正五
 位下同十一年十二月廿五日授上野国正五位下
 赤城神正五位上同十六年三月十四日授上野国正五
 位上赤城神從四位下元慶四年五月廿五日戊寅授上
 野国勳七等從四位下赤城沼神從四位上と見え本國

神名帳ハ正一位赤城大明神ト有リ又同帳ハ群馬
 西郡從三位大奈知明神ハ小奈知明神ト有リ大己貴
 神ハ對ヘ七ツ小己貴神ト申セルヲ傳フ廿九百七十
 引リ東大寺戒壇院神名帳ハ大汝大明神ハ小汝大明神
 有リ御名ハ同ト又同郡從四位下石神明神從五位
 上天石神明正五位上ハ石神明ハ見エ正五位上温
 泉明神ト有リ共ハ右ノ二神ハ係リ可ク御事ハ有
 又群馬郡正五位上赤城若御子明神ハ群馬西郡從五
 明神ト見エ赤城若御子明神ハ勢ハ多ク郡正五位上赤城若御子
 有リ其御子神ハ正三位赤城三御子明神ト有リ申ス也
 有リ其本宮ハ遙ク社ハ有リ群馬郡從五位上赤城三御子明神ト有リ申ス也

恭天皇御世建立ニ有リ○神名式ハ下野国那須郡温泉
 神社ハ式社考ハ湯本村ハ在リ大己貴命ハ彦名命也
 有リ三代實錄ハ貞觀五年十月七日ハ授下野国從
 五位上勳五等温泉神從四位下同十年二月廿八日
 授下野国從四位下勳五等温泉神從四位上ニ有リ
 又同郡式外ハ温泉神社ハ有リ其黑羽温泉大宮神鏡銘
 之ハ下毛野国那須郡温泉大神命長尾市修祭之後
 凡ハ九百六十餘年殆ハ百病成ニ五穀古祠也惠及四海名遠
 凡ハ天故貞觀十一年己丑春二月廿八日丙辰進從四位
 下勳五等加從五位上以祈弭災病使国司郡領等奉

○日本書紀傳三十

○八百五十

鑄鏡三圓於大宮と有て其黒羽社ハ右の温泉神社よ
り近奉れるありと云り但右小神階の御事を貞觀十
一年と有れども三代実録ハてハ十年と有て一年の
相違有り其より九百六十餘年以上の崇神天皇の御
世の始ハ當れり其七年御紀ハ便別祭八十萬群神
仍定天社因社及神地神戸と有ハ依て云るあり可ト
長尾市ハ垂仁天皇二十五年御紀ハ所見たる大倭直
祖長尾市宿禰と云人の事ありめと崇神天皇の御
世の始ハ此人の有む事ハ甚思來無キ事あざり後勘
の爲ハ今並載る者あり伴主説ハ右鏡銘貞觀の此の
文ハ非ず甚拙者あり後世鑄

造の物あり事決ハ那須郡の本社よりも尊ウ令む
と巧めり業あり可トと云れたる然レ言ハありむ
○神名式ハ陸奥国荻田郡荻田嶺神社名神觀跡大聞老
志ハ土人呼フ之藏王岳以山上有藏王權現祠也中吉川
氏官社縁起曰所祭白鳥明神乃日本武尊也と書行
囊抄ハ荻田山藏王權現宮有リ同地藏堂有リ白石近
邊あり荻田宮荻田明神社荻田駅中ハ在り當社の使
者ハ白鳥ありと云り然レ嶺ハ坐ハ穴彦名神ハ
て駅ハ坐ハ日本武尊ありが共ハ荻田の地名を負せ
奉れるハ帳の趣ハ一座ありとも其二神を合せて被
祀ス事と思はるトある大同類聚方十三ハ迦理陀

藥陸奥国荊田神社仁所傳二且里人常用天驗多方之
 有七少彦名神也傳以此者又見べきあり聞
 老志小又云湯川田山北有温泉山岳尤峻嶽荒粟大森大川
 田并塚諸山相並其北有温泉能治瘡毒癩病等仍謂之
 湯川田也有之也證之為べきあり備右謂ゆ地藏
 堂大已貴神を祀れるより轉れる者ありむ神階
 の御事ハ統後紀小兼和十一年八月辛巳朔丁酉奉授
 陸奥国無位勳九等荊田嶺神從五位下縁有靈驗也同
 十五 年五月己未朔辛未奉授陸奥国從五位下勳九
 等荊田嶺神正五位下餘如故三代實録小貞觀十一年

△下八百八十九
 岐國荊田郡粟井
 神社名神大の所
 小云奉有り老合
 す可し

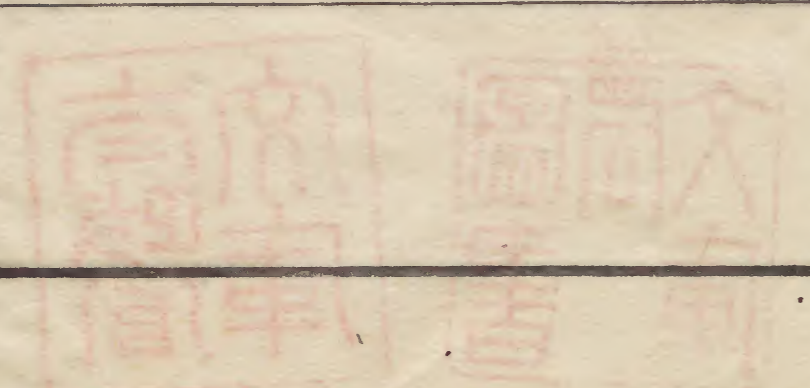
十二月八日 授陸奥国正五位下勳九等荊田嶺神
 正五位上同年同月廿五日 授陸奥国正五位上
 勳九等荊田嶺神從四位下之所見たり但右の十二月
 正五位下をハ正六位上ハ正五位上をハ從四位下ハ
 誤れるを今改めて引ハ然ハ前ハ後ハの文ハ共ハ見ハ合ハせハて
 右の如くありてハ引ハ然ハ前ハ後ハの文ハ共ハ見ハ合ハせハて
 年九月て亥正四位下坂上ハ大忌寸荊田麻呂為陸奥鎮
 守將軍と有也此地中因ハれハるハ名ハありハ知ハ名ハ抄ハ
 川田郡川田郷を郡田郡那田郷ハ誤ハれハりハ其ハ山ハ上ハのハ叢
 祠ハ其ハ荊ハ田ハ麻ハ呂ハ主ハ又ハ神ハ名ハ式ハ小ハ玉ハ造ハ郡ハ温ハ泉ハ神ハ社ハ頭ハ注
 を祀れるハ之ハ云ハりハ△
 小大己貴命と有り出雲国意宇郡玉作湯神社小由有
 り事傳廿四 丁ハ小注ハるハ事ハ共ハをハ合ハせハ見ハるハ可ハしハありハ統
 後紀小兼和十年九月丙戌朔庚寅奉授陸奥国無位玉造温

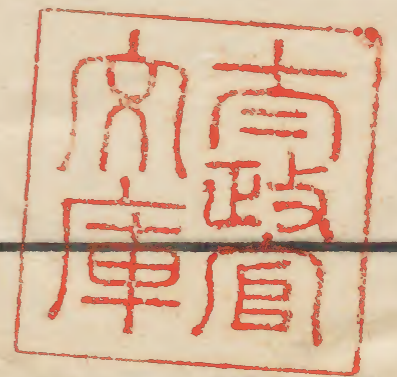
泉神從五位下と見えたり又温泉石神社頭注し
彦名命之有り統後記の義和四年四月癸巳朔戊申陸
奥国言玉造寒温泉石神雷響振動書夜不止温泉流河
其色如漿加以山燒谷塞石崩折木更作新沼沸聲如雷
如此奇怪不可勝計仍仰国司鎮謝災異教誘夷狄と見
元三代実録の貞觀五年十月廿九日 授陸奥国無
位温泉石神從五位下と有り又磐城郡温泉神社式小
所見たり猶同録の同年同日 授陸奥国無位
小結温泉神從五位下と見え紀略の寛平九年九月七
日巳卯授陸奥国坐正六位上陽日温泉神正五位下と

有る本より大已貴命彦名命二神の御在り坐
べき事更小論を待たざる所あり右の玉造郡温泉神
温泉在啼子村自岩畔出克治疾其下亦有温泉此地也
相傳往昔義經北行夫人開胎于龜毀坂仍并慶養之笈
中表於此地始出吼声故後人号啼兒温泉在其地神
名帳所謂温泉社是也書温泉石神社是也石神
在大口村其地温泉社有温泉所謂温泉石神社是也
以磐城郡温泉社佐波古御湯相馬鎮日之湯本驛
西南有大嶽曰三箱山古之佐波古山是也其山下
有温泉是乃佐波古御湯也延喜式温泉神社是也
磐城名勝略記の在城南一里廿八町湯本村例祭四
月八日云云此方有鹿連射手之家方元八少
耶能浦藥陸奥国桃生郡人壯鹿連射手之家方元八少
彦名命之神藥と云事有少此事次八百六十四下越後
国頸城郡五十公神 ○神名式小出羽国平鹿郡鹽湯彦神
社の下云云へ 社傳廿九百七十小注一奉子か如く土人説小鳴見沢

の御嶽山に坐り此山は横手と云より二里余攀上り
て此山上萱森と云ふ高原の地あり其より十所許
上りて巔有り此を御嶽山と云ふ當社を土人熊野堂
とも御嶽権現とも云ふ古昔此山麓に温泉多かりけ
るを今ハ絶たり云々と云ふ就て考る九代十代傳廿四
九の注るが如く摂津国有馬郡有間神社凡土記
所祭大己貴命少彦名命也と有る其社号ハ紀伊国熊
野の有馬村に起れるを同郡温泉神社名神も同神と
る凡土記有馬郡有鹽之原山此近邊有鹽湯因以
為名と有る合れば此鹽湯彦神社と申すハ全く其温

泉に因れる神名ある事著明き上ハ右の熊野堂の称
も本より由有る事あるむ然るを土人弘安年中一遍
上人再興す熊野早玉神を勧請すと云れども本より
の廢社を取建たるの之より此に始れるハ非る
可き事右の徴し云ふ事共就て合せ考ふ可き者亦
あり又式小波宇志別神社傳ハ八木沢村保呂羽
山の在す大和国吉野郡金峯神社を遷奉りて此の
一名金峯山と云ふ祭神ハ少彦名命に坐すと云り此
波宇志別神の羽ハ山名を保呂羽と云ふ由有る思内
和名秋羽族體ハ倍羅磨日本紀私記云倍羅磨師説





鳥乃和岐乃之多乃介字為倍羅摩也摩謂眞實也言鳥
掖羽乃古止掩藏之周也案與區也今俗謂保呂羽原也
之有を引て通證十二九今按款作摩倍羅摩今有雜稱
保呂羽者在翼下而補綴罅隙之毛也云云此保呂羽
みて鳥掖下の嫩毛を云而り波字志別神と申す波即其を云
上七百八十徴下八十奉るが如く以鷓鴣羽為衣と有ふ
合せ考ふる唯の其羽を以て衣とハ為させ給はず
其徴のある保呂羽を編て著させ給へる御事を此の
至りて明の知る所ありければ此羽のて字志ハ大
人のて崇まへ申せるる可く別ハ例の某別ハ同ハ

